



「自然や環境」のことに触れたいくなったり、
ライフスタイルを考えたりするヒントが
この「エイ・エイ」の中に入っていますヨ。



C O N T E N T S

- ◆あまピヨ「木の実と仲間探しの旅」vol.5
「お散歩ハンドメイド」
- ◆情報交流コーナー:あま・あま・ポン
・コロナ禍の救世主尼崎の森中央緑地
- ◆尼崎物語vol.7
「尼崎に博物館ができました」

- ◆イタリア留学記 vol.1
「その街を知りたければバールへ入れ」
- ◆What's「尼崎21世紀の森づくり?」

【エイ・エイ】 環境とライフスタイルを考えるフリーマガジン 2020年11月1日発行 NPO 尼崎21世紀の森 <http://www.ama21mori.net/>

米 尼崎21世紀の森づくり

子どもたちが大きくなった時、見せたい風景はどんなものでしょう。「この森は、私たちがつくったんだよ」そんな想いを「尼崎21世紀の森」にこめます。

<http://ama21mag.jp>
(尼崎21世紀の森ウェブマガジン)
<http://ama21mori.net/>
(市民版)

みんなの愛で森ができる

苗木の里親大募集



一苗から始める森づくり、あなたからはじまります。
手始めにかけこみでください。



元気に育ててね！
中央緑地でまってるよ

あましんでは、

「尼崎の森中央緑地」に植樹する
苗木の里親さんを募集しています。

詳しくは、店内の
「苗木の里親案内人」に
お尋ねください

苗木の里親制度のしくみ

ご家庭などで苗木(コナラ、アラカシ、エノキなど)を育てていただいたあと、尼崎の森中央緑地に植樹していただきます。そして、みんなに愛される森になるよう育てていきます。
※お渡りする苗木によって育てて頂く期間が変わります。(約1~2年間)



ビニールポットに入った苗木をみなさまにお預かりいただきます。



約1~2年間、ご家庭などで育てていただきます。



育てていただいた苗木は、皆さんと一緒に尼崎の森中央緑地に植樹します。



尼崎の森中央緑地整備イメージ

「尼崎21世紀の森づくり」は、

「森と水と人が共生する環境創造のまち」をテーマに、私たちの手で自然をよみがえらせるため、みんなで苗木づくりから取り組んでいます。

- 尼崎の海辺に森をつくり、美しい自然を取りもどす
- いろいろな人たちが森の中でいきいきと暮らせるまちをつくる
- 緑あふれるまちでの産業の活性化を応援する

これらの取組みを市民、企業をはじめ、いろいろな主体と尼崎市・兵庫県からなる「尼崎21世紀の森づくり協議会」を設置し、進めています。



アクセス方法

- 阪神電車
「武庫川」 「尼崎センタープール前」駅から車・タクシーで10分程度
- 阪神バス
出屋敷駅→
尼崎スポーツの森まで約10分
- 車でのアクセス
阪神高速湾岸5号線
尼崎末広IC出口から約3分



「尼崎21世紀の森づくり」を応援しています。
尼崎信用金庫
AMASHIN



【お問い合わせ】
・尼崎信用金庫本支店窓口
・兵庫県阪神南県民センター 尼崎港管理事務所尼崎21世紀プロジェクト推進室
〒660-8588 尼崎市東難波町5-21-8 TEL:06-6105-4433 FAX:06-6481-8251

フォトフレーム



100均で簡単に手に入るフォトフレームのガラス部分や金具部分を外し、フレーム部分に切り株をくっつけて壁掛けに。

- 材料**
- 扱い次第でいろんなものに生まれ変わります100均のフォトフレーム
 - 小さな切り株
 - グルーガン



「尾崎21世紀の森」で生まれた「あまじヨ」が森を出て尾崎の森の仲間を紹介するよ!



モビール

- 材料**
- 流木
 - 小さな切り株
 - たこ糸
 - 麻紐

流木や切り株に穴を開けて紐を通すとおしゃれなモビールに生まれ変わります!



写真: 陳宜岐
記事: 荒巻友里恵
(兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科2年 ALPHAランドスケープ創生部 淡路島にて自然やデザイン、アートと向き合う日々。)

ヒンメリ



ヨシを使ってヒンメリを作りました。ヒンメリは藁に糸を通して作るフィンドの装飾品です。ヨシは中に穴が開いているのでキレイに作ることができます。(節がある場合は針を使ってください)単体で飾るのも素敵ですが、今回は流木にぶら下げてみました。

- 材料**
- ヨシ
 - たこ糸



いかがでしたでしょうか? お散歩で見つけた自然の材料たちがハンドメイドによっておしゃれな雑貨に生まれ変わりました。今は自然派の雑貨がお店に立ち並んでいます。少し工夫すれば自分でも作ることができます。家にいる時間を利用して家の中をおしゃれに飾ってみてはいかがでしょうか。

ハンドメイドを
楽しむ

感染症が蔓延する中、人々の生活が変わりつつあります。人混みの中に外出することは、知らず知らずのうちに気が重くなる。家に閉じこもり気分が塞ぎがちになっていないでしょうか?
ストレス発散の手段は、テニスマパークで遊んだり、ショッピングすることだけではありません。外に出て自然を感じながらお散歩してはいかがでしょうか?
毎日違う発見があり、自然の変化と触れ合う中で自然のものをハンドメイドとしていかに活用できるか、自分の散歩道の途中に意外と可愛くておしゃれなハンドメイド雑貨の材料になるものが見つかるのです。

親子で、夫婦で、友達と、あるいは一人で。自然の材料を使いながら気軽におしゃれな小物作りを提案します。



尾崎で材料集め

今回のお散歩の場所は尾崎です。工場や住宅地の中にもたくさん可愛い自然のものが転がっていました。今回使わせていただいたのは、「小さな切り株」「流木」です。

皆さんの身近でもきっと見つかると思います。探してみてください。

これらを使って
おしゃれな
ハンドメイド
雑貨作りに
挑戦したい
と思います。

ヨシ



ヨシ、またはアシと呼ばれるイネ科の多年草植物。よく川沿いにたくさん生えているのを見かけます。古くからすだれなど様々な形で利用されてきました。ヨシを乾燥させると竹のような構造をしていることが分かります。

流木



海岸沿いの散歩はとても気持ちが良いものです。海風を肌を感じながらふと地面を見るとそこにはシーグラス、貝殻などきれいなものがたくさん落ちています。その中で私が選んだのは流木。扱い次第でいろんなものに生まれ変わります。

小さな切り株



折れた木や間伐された木を輪切りにしてみると年輪が何層にも重なっているのが分かります。木が生きてきた時間が感じられ、磨けば自然が感じられるいいハンドメイドの材料になります。



【尼崎物語】 未来と過去をつなぐ旅

vol.7 尼崎に博物館ができました



元々尼崎城本丸跡

頃にかつ
トされて
しまつた
そうです。
残念なが
ら全部は
拝見でき
なかつた

10月10日に開館する尼崎市立歴史博物館。開館前の慌ただしい中、企画担当の丸井さん、史料担当の辻川さんからお話を伺うことができました。新たに歴史博物館として生まれ変わったのは、旧尼崎市立高等女学校。その後、高校や中学校の校舎として、平成21年からは文化財収蔵庫として使われていた建物で、昭和9年の室戸台風で木造小学校が倒壊したことかから造られるようになった、鉄筋コンクリート建築のひとつです。昭和13年に竣工した校舎は、機能的でシンプルな戦前の近代建築で、映画のロケに使われたこともあるそう。左右対称の八角形の窓や、庇を支える円柱の、白い円盤型のデコレーションが印象的です。外壁も施工当時の色彩が再現されました。時計台のようなファサードは、元々もつと高さがありませんでしたが、戦後、屋上に教室を増築した

にカッ
トされて
しまつた
そうです。
残念なが
ら全部は
拝見でき
なかつた

のですが、階段や各階の廊下には展示概要や年表などのパネルが設置され、6室の常設展示室では、古代からの貴重な遺産が、なんと通史で！展示されるそうです。公害問題を克服してきた歴史を伝えるために、現代史の展示にも力を入れるそう。常設展は随時展示替えされるようなので、ぜひ定期的に訪れたいところです。三階は、開館記念展「尼崎藩主三代の軌跡」が開催される、特別展・企画展のための企画展示室で、そこから「あまがさきアーカイブズ」と地域研究史料室へと続きます。以前は別の場所にあった史料室が歴史博物館のなかに入ること、来館者は展示



一部に尼崎城石垣の石が使われた昭和2年築造の元校門



白い廊下、アーチ型の柱が素敵



中庭



(文・写真 横山知代子)
ご協力:辻川 敦氏(尼崎市立地域研究資料室館長)

コロナ禍の救世主 尼崎の森中央緑地



芝生の上で遊ぶの楽しいなあ



平井 住夫所長
公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会
尼崎の森中央緑地パークセンター所長
兵庫県職員を経て2019年より現職

突然の休校。
我が家の小学生男子の危機
「コロナ感染拡大防止のため、2月28日に突如決まった休校。小学生男子のいる我が家。パワーを持って余した子どもたちと一日中、家中に閉じ込められたら窒息してしまふ！そんな中、我が家のガス抜き場だったのが、広大な芝生広場のある「尼崎の森中央緑地」でした。コロナ禍の尼崎の実態はどうだったのでしょうか？公園管理事務所、平井住夫所長に、お聞きしました。

学校休校で利用者急増
3月に学校が休校になってから平日の公園利用者が急増。平日なのに例年の週末並みの賑わいになりました。手押しのカートを引いて家族連れで来園し、芝生広場にポップアップテントを張り、親はまつたりテントで過ごし、子どもたちは芝生の上でボールや自転車で遊んだり、緑の中で一日中過ごす光景が見られるようになりました。ロハスフェスタを尼崎の森で開催してから、特にこのような利用スタイルが定着してきたそうです。環境にやさしいスローライフを試行するロハスな価値観を持つ人たちが、このようなスタイルをけん引しているのかもしれない。

公園で青空テレワーク
コロナ禍で、在宅勤務が一気に導入が進みました。親はテントの中で

パソコン、子どもたちはその周りの芝生で遊ぶというような新しいライフスタイルも見られるようになってきました。ストレスの多い通勤や狭いオフィスから解放されて、緑の中で仕事ができるようになり、大人も青空の下でリフレッシュ。公園は、子どもたちを外で遊ばせながら仕事ができる理想的な環境です。

緊急事態制限に見つけた小さな幸せ
以前は、週末にショッピングセンターに行ったり、映画やテーマパークに行ったり、なんとなくそれが定番になっていたけど、そんなところに行かなくても公園で一日過ごせることに気が付きました。小さな野草の花を見ついたり、雲の流れを眺めたり、一緒子どもと遊ぶ中で成長を感じたり、鬱屈とした中にも日常の小さな幸せがちりばめられた時間でした。コロナ禍が過ぎ去った後でも、この公園での時間の過ごし方は残していきたいです。

(文責 守安美)

